

1970年代以降、王子グループはさまざまな分野で海外展開を進めてきました。このコーナーでは、世界各国で事業活動を拡大させてきた各社の挑戦を紹介します。1990年代に設立された次の6社を紹介します。

- 1 1990.9 設立 **KANZAN** ドイツ
- 2 1992.9 設立 **SPFL** ニュージーランド
- 3 1993.8 設立 **APFL** オーストラリア
- 4 1995.5 設立 **QPFL** ベトナム
- 5 1995.11 設立 **上海東王子包装有限公司** 中国
- 6 1996.11 設立 **AOSP** タイ



since 1990

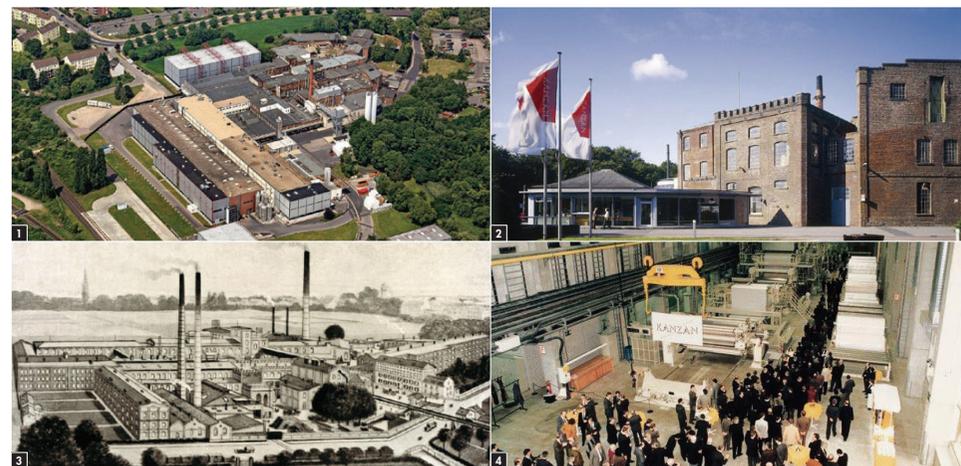
## KANZAN Spezialpapiere GmbH (KANZAN)

ドイツ

### 欧州初の日系・感熱紙製造会社

1980年代の欧州における感熱紙の普及は、一部の現地メーカーに加え、主に日本からの輸入によって支えられていたため、日本の感熱紙メーカーは欧州に生産拠点を求めるようになっていた。神崎製紙は上質紙メーカーであるZanders社と既にノーカーボン用紙の分野で長年にわたって協業しており、この協力関係が、新たな合併事業を検討する際の礎となった。神崎製紙は、欧州で抄紙機と経験豊富な従業員がいる生産拠点を探していた。一方、Zanders社は、ノイミュール工場にそのような生産拠点を持ちながら、新しいビジネスモデルを模索していた。その後、両者が合意し、欧州での感熱紙の販売実績があった丸紅を少数株主として加え、1990年9月、神崎(Kanzaki)とZandersの頭文字をとって「KANZAN」と名付けられた新しい合併会社が誕生した。

その後、Zanders社のKANZAN持分売却の意向を受け、2000年に王子製紙がその持分を取得、KANZANを子会社化し、現在、KANZANは高付加価値の感熱記録紙の分野で、欧州で確固たる地位を築いている。



●KANZAN全景、●KANZANエントランス、●1919年当時のノイミュール工場、●1991年、1号塗工機の落成式典。

#### 会社概要

会社名  
KANZAN Spezialpapiere GmbH  
(KANZAN)

事業内容  
感熱紙等の製造販売

設立年  
1990年

所在地  
ドイツ デューレン市

#### 沿革

1710年 商人リュツガー・フォン・シェーヴェンによってノイミュール工場設立  
1990年 KANZAN Spezialpapiere GmbH 設立  
1991年 1号塗工機設置  
1995年 抄紙機にオンライン塗工設備を設置  
2000年 王子製紙がZanders社保有の持分を買い取り子会社化  
2001年 2号塗工機設置  
2002年 抄紙機増速工事完了  
2010年 ノイミュール工場が300周年  
2024年 増産投資完了予定

since 1992

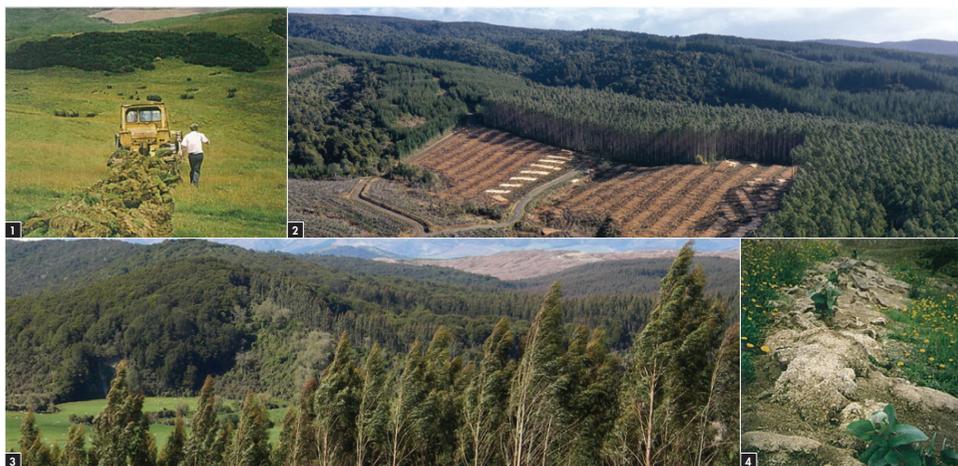
## Southland Plantation Forest Company of New Zealand Ltd. (SPFL)

ニュージーランド

### 地域の農村や牧場と共に

1980年代後半、紙の原料となる広葉樹チップは、チリやアメリカの天然林からとれるチップに抛るところが大きく、将来にわたる原料の確保や環境保護の観点から植林事業を進めていく必要があった。王子製紙は、植林適地を探すため、当時取引のあった商社と共にオセアニアや南米、東南アジア、アフリカを調査した。当時、ニュージーランドでは、国の一大産業である羊毛関連事業への政府補助金が打ち切られたこと等の影響で一時的に不景気となり、牧畜用の多くの土地が安く売り出されていた。また、伊藤忠商事の子会社であるSWEL社が、植林及び伐採、チップ加工及び港湾荷役作業をNZで行っていたことから、1992年、NZに伊藤忠商事と合併でSPFLを設立した（当時王子が51%、伊藤忠が49%出資）。2004年には、FM認証を取得し、NZ初のFSC®FM/CoC認証（※）広葉樹植林会社となった。

地域社会において、これからも周辺の事業者と共存共栄しながら、王子グループ各社へのチップ供給基地として、また将来的には広葉樹用材資源基地として、再生可能な原材料を供給していく。



①購入した牧草地を重機で耕す。②手前：植林地、中央：伐採された原木と、20年育てた林地、奥：他社林地と天然林。③写真手前～中央部まで広がるのは全てSPFLで植林したユーカリ。植林地の周囲に牧草地（黄緑色部）、奥に山脈が広がる。④植えたばかりのユーカリ。

## 会社概要

## 沿革

会社名 Southland Plantation Forest Company of New Zealand Ltd. (SPFL)	1992年	Southland Plantation Forest Company of New Zealand Ltd. (SPFL) 設立
事業内容 植林事業	2004年	FSC®FM/CoC認証（※）を取得 ※ライセンスコードFSC®FM/CoC008418
設立年 1992年	2005年	初の伐採及びチップ出荷
所在地 ニュージーランド サウスランド地方	2007年	植林面積が10,000haを超える
	2020年	王子HDが株式を追加で取得（王子が70%、伊藤忠紙パルプが30%出資）

since 1993

## Albany Plantation Forest Company of Australia Pty., Ltd. (APFL)

オーストラリア

### 地元の環境改善に大きく貢献

1980年代後半、天然林の伐採に批判的な多くの環境グループが世界的に抗議活動を活発化しており、製紙原料を植林木メインの供給体制にシフトしていくことが急務であった中、1993年、NZ南島に続き西豪州のアルバニー市に、王子製紙を主要株主（現株主：王子HD、千趣会及び日本郵船）とする植林事業会社APFLが設立された。

アルバニー地域は、過去の天然林の過度な伐採による森林減少、塩害の発生等、家畜の放牧環境が悪化しており、1980年代後半から西豪州政府CALM（Conservation and Land Management）が、農地の塩害拡大防止と防風林効果を目的としてアルバニー地域で植林を始めていたが、CALMの植林実績は豊富ではなく、結果的にAPFLはアルバニーにおける植林事業の先駆者的な役割を担った。塩害防止や土壌侵食防止等に対する貢献が評価され、1995年に「西豪州土地環境賞（Landcare Award）」、1997年には「第一回アジア環太平洋環境マーケティング大賞（Asia Pacific Environmental Marketing Award）」を受賞するまでになり、地元政府からも既存農業と共存しながら環境に配慮した植林を進める姿勢が高く評価されている。



①APFL植林地遠景②1994年、創業当時の植付作業。③2002年、チップ輸出初出荷セレモニー。チップ船は「TOJI UNIVERSE号」。④アルバニー港のチップヤード。

## 会社概要

## 沿革

会社名 Albany Plantation Forest Company of Australia Pty., Ltd. (APFL)	1993年	Albany Plantation Forest Company of Australia Pty., Ltd. (APFL) 設立
事業内容 植林事業	1995年	西豪州土地環境賞を受賞
設立年 1993年	1997年	第一回アジア環太平洋環境マーケティング大賞を受賞
所在地 オーストラリア アルバニー市	2000年	王子製紙と伊藤忠商事がAlbany Plantation Export Company Pty., Ltd.(APEC)をアルバニーに設立
	2002年	APEC社が、APFL植林木を原料とするチップ輸出を開始

since 1995

## Quy Nhon Plantation Forest Company of Vietnam Ltd. (QPFL)

ベトナム

### ベトナムの植林事業の活性化に貢献

海外植林事業拡大を検討していた王子製紙は、温暖で降水量も多い植林に適した気候で、豊富な労働力を有していたベトナムに着目。1995年、日商岩井株式会社（現：双日株式会社）と大日本印刷株式会社とで植林事業会社QPFLを設立した。

事業開始当初、ユーカリとアカシアを植林したが、生育が悪く、想定通りに収穫できない事態に直面した。その後、苗畑や林地で生育の良かったアカシアハイブリッド（自然交雑種）を選抜し、挿し木によるクローン植林に切り替えた。施業方法が確立されていない中で、コスト面を含めた最適な方法を見つけるため試行錯誤を日々繰り返しながら独自の植林サイクルを確立し、収穫量を伸ばしていくことに成功。2002年、クイニョンのチップ工場と合弁会社BDCを設立し、植林からチップ化までの一貫生産が可能となった。2006年、QPFLはベトナム初となるFSC®FM/CoC認証（※）を取得した。

QPFLは地域住民への健康診断の提供や学校設備の寄贈等を通し、地域社会との調和を重視しながら、現在も木材を供給し続けている。



①丘陵地のユーカリ植林地。除草後の実地確認。②5年生のアカシアハイブリッド。横に立つ人が小さく見えるくらい、木は大きく成長。③岩だらけで急斜面の植林地。食害調査を行う。

## 会社概要

会社名  
Quy Nhon Plantation Forest  
Company of Vietnam Ltd. (QPFL)

事業内容  
植林事業

設立年  
1995年

所在地  
ベトナム クイニョン市

## 沿革

1992年 ベトナムでユーカリ、アカシアの試験植林開始

1995年 Quy Nhon Plantation Forest Company of Vietnam Ltd. (QPFL)設立

1998年 アカシアハイブリッドの事業植林開始

2002年 Binh Dinh Chip Limited Liability Company (BDC)設立。初の伐採及びチップ出荷

2006年 ベトナム初となるFSC®FM/CoC認証（※）を取得 ※ライセンスコードFSC®FM/CoC016623

since 1995

## 上海東王子包装有限公司

中国

### 中国市場への足がかり

中国の小麦粉市場において、量り売りから角底袋包装へ切り替わり、紙製の袋は巨大な市場になると伊藤忠商事が予測していたこともあり、王子製紙は本プロジェクトを王子グループの中国進出の足掛かりと位置づけ、前向きに検討を開始。1995年、グループで製袋事業を担っていた王子製袋と伊藤忠商事、伊藤忠（中国）集团有限公司、中商華天実業有限公司の4社で、上海東王子包装有限公司を設立した（王子製袋：46%、伊藤忠：25%、伊藤忠（中国）19%、中商華天実業：10%）。

当初、ポリ袋が主流だったため市場開拓には苦労したが、破袋強度や、優れた印刷適性の原紙（王子製紙春日井工場の晒クラフト）が評判を呼び、価格は高くとも、大手デパートへの納入が決まるなど徐々に市場を拡大。その後、他デパートやアパレルブランドなど、市場を次々と開拓し、手提袋市場における王子ブランドを確立した。



①正門前から撮影。②珍しく積雪した際に正門前から撮影。③伊勢丹向け全手加工品製袋風景。④全自動平紐機製袋風景。

## 会社概要

会社名  
上海東王子包装有限公司

事業内容  
重・軽包装紙袋の製造販売

設立年  
1995年

所在地  
中国 上海市

## 沿革

1995年 上海東王子包装有限公司設立

1997年 工場操業開始

2005年 王子包装（上海）有限公司設立

2011年 伊藤忠および中商華天実業有限公司から持分譲渡

2014年 上海東王子包装有限公司が王子包装（上海）有限公司敷地内に転移後、合併

since 1996

# Advance Oji Speciality Papers (AOSP)

タイ

## 王子グループ、アジア進出の第一歩

王子製紙と神崎製紙が合併した1993年10月に、新王子製紙は、タイの製紙会社Advance Agro社（以下、AA社）とコート紙製造の技術援助契約を締結した。AA社は、タイ最大の米の輸出業者であるスー・ハー・セン企業グループの製紙会社でコート紙、上質紙を年産20万トン生産する工場を1996年春に稼働させることを計画し、新王子は本契約に基づき多数の指導員を派遣していた。更に、新王子はAA社から新工場と同じ工業団地内にノーカーボン紙の合併会社設立を提案され、経済発展著しいアジア市場の将来性に着目していた新王子も、これに応じ1996年、Advance Oji Speciality Papers（以下、AOSP）を設立した。これが新王子の東南アジア進出への第一歩となった。

多種多様な機能紙の生産体制を整え、東南アジアのみならず、現在では、オセアニア・中東・アフリカへの輸出も行い、王子グループの感熱紙世界展開の一翼を担っている。



①プラチンプリ工場の全景、②感熱紙コーター（CM2）、③ノーカーボン紙コーター（CM1）、④タック紙コーター（LM2/OLT）。

### 会社概要

#### 会社名

Advance Oji Speciality Papers  
（現：OPT）

#### 事業内容

ノーカーボン紙、感熱紙の製造販売

#### 設立年

1996年

#### 所在地

タイ プラチンプリ県

### 沿革

1996年 Advance Oji Speciality Papers (AOSP) 設立

1997年 アジア通貨危機発生。AOSPは子会社となり、OPTに社名変更。

1998年 プラチンプリ工場完成、ノーカーボン紙の生産開始

2002年 Oji Label(Thailand)Ltd.設立(粘着紙の生産体制構築)

2005年 感熱紙の生産開始